

「EECERA 学会参加報告」

高橋陽子（お茶の水女子大学附属幼稚園）

2022 年 8 月 23 日から 26 日までイギリスのグラスゴーで開催されていた EECERA に参加した。23 日は、何カ所かの保育施設訪問が準備されており（申し込み制）、私は Kirkintilloch という街にある Lairdsland Early Years Centre を訪れた。先進的な施設、遊び重視、保育者の温かい視線・言葉かけにあふれており、のびのびとその子らしく過ごす様子が見られた。

今回の学会で私たちのグループ（小玉・佐藤・高橋）は、24 日の Poster Symposium Set 1 の中で「Documentation in Japan : Focusing on the significance of dialogue」を発表した。当園で毎日行っている保育の振り返り＝記録の方法について、その実際と教員たちのインタビューによって導き出した意義をまとめたものである。興味を示された方々との語り合いの中で「子ども同士の関係性に注目していることはすばらしい。ヨーロッパは、一人ひとりにフォーカスはあるが、子ども同士のつながりにはあまり着目していない」という言葉は印象的である。ポスター数は、2 日間で 51 枚。ポスターは余裕を持って貼られており、対話するには十分なスペースがあったことも付記しておく。

次にシンポジウムについてお伝えする。2 日間で 141 のセッションに分かれ、各 3～4 の発表があった。スタイルは、日本保育学会の口頭発表と同様であった。意見交換タイムは、それぞれの国の幼児教育の現状や課題、発表内容について、次々と手が挙がり、活発に発信、応答がされていた。

日本の幼児教育を国際的な場で発表することの重要性を感じた。今後も継続して発信を続けたい。